

ふりがな 氏名	やまが たかよし 山鹿 隆義	職名	准教授
取得学位	博士(医学)	学会での受賞歴	第53回日本作業療法学会 優秀演題賞 受賞
主な担当科目	作業療法概論、基礎ゼミナール		
所属学会	The World Federation of Occupational Therapists、日本作業療法士協会、長野県作業療法士会、山梨県作業療法士会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、Cochrane Japan、QOL/PRO 研究会、日本呼吸ケアネットワーク、日本神経科学学会、日本臨床作業療法学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
1 教育方法の実践例 1) ポートフォリオによる学習の見える化とPBLの促進(健康科学大学)	平成29年9月 ～ 令和4年3月	「作業療法演習Ⅱ-1」「作業療法演習Ⅱ-2」は作業療法の一連のプロセスを学ぶだけではなくの専門職としての主体的な学習態度を習得する科目である。ポートフォリオにて定期的に各自が持つ学習課題を共有と進捗を確認し、学習時間とその達成度を「見える化」した。これにより、曖昧となっていた学習者の個々の課題が明確となり、課題志向的な問題解決能力の育成と主体的な学習態度の教育が可能となった。
2) 体験型講義と集団討議による課題(健康科学大学)	平成29年4月 ～ 令和4年3月	「生活環境学演習」は、作業療法に必要な福祉用具や住宅改修の知識、技術を習得する科目である。基本的知識を習得するための実際に体験するような講義に加え、事例を通して福祉用具の導入や住宅改修の実施の可否について集団討議場面を設定し、アクティブラーニングを促進した。これによって、より実践的に作業療法を理解することにつながることができた。
3) 課題の調整と集団討議による課題の活用(健康科学大学)	平成29年9月 ～ 令和4年3月	「作業療法演習Ⅱ-1」「作業療法演習Ⅱ-2」では少人数制で、事前学習の提示と臨床場面を想定した課題解決型の集団討議場面を設定し、アクティブラーニングを促進した。これにより、作業療法のプロセスの学習到達度を高めることができた。
	平成31年4月 ～ 令和4年3月	「身体作業療法治療学演習」ではグループで事前学習として個別に事例を提示し、臨床場面を想定して模擬患者の治療プログラムを立案させ、集団討議場面を設定した。これによりアクティブラーニングを促進され、現実的な作業療法プログラムの立案が可能となった。
	平成31年4月 ～ 令和4年3月	「身体作業療法評価学演習」ではグループで事前学習として個別に事例を提示し、臨床場面を想定して模擬患者の評価をまとめさせ、集団討議場面を設定した。これによりアクティブラーニングを促進され、作業療法評価の統合と解釈が可能となった。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
4) GPA や協同学習の活用 (健康科学大学)	平成 31 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「身体作業療法評価学演習」は、作業療法評価のうち、関節可動域測定や徒手筋力検査の技法を中心に習得する科目である。GPAを考慮したペアを組み、事前学習の設定および講義と演習・実習を効果的に組み合わせた。これにより、知識・技術をより定着しやすくし、実技の習得につなげた。
5) 授業外における学生の能力を伸ばす取組 (健康科学大学)	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	学習意欲が高い学生に対して、抄読会として作業療法の最新の論文に触れる機会を提供し、批判的吟味の仕方や研究方法、実臨床への応用の仕方などを教授した。これにより、学生は論文検索の実践や臨床実習での活用を含めて情報リテラシーを高めることができた。
6) 課題・レポートの調整と ICT による学習支援 (健康科学大学)	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は数週間にわたり病院や施設の作業療法士のもとで学生が作業療法の一連の流れを習得する科目である。実習指導者と課題調整を図りながら、学生の学習・心身のフォローのために Web とアプリを活用した双方向性の学習支援をおこなった。これにより、学生の実習における学習到達度を高めることができた。
	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「卒業研究」は、学生自身が研究の実施と論文を執筆する過程を習得するための科目である。学士能力として研究の実施・論文執筆・プレゼンテーション能力を修得できるよう支援した。また、適宜 Web 会議をいれることにより、学生同士で議論が促進され、これにより個々の学生が研究を手順に沿って実施、分析、考察することで研究の手順に対する理解を高めることができた。
7) 実例提示の活用 (健康科学大学)	平成 30 年 9 月 ～ 平成 31 年 3 月	「感覚統合と作業療法」は発達課程に障害をもつ児に対しての治療技術を習得する科目である。実際に障害を持つ対象児とその母親に対して、評価・治療を検討した。対象児の生活の困りごとや母親の苦労を実際に知ること、現実的に達成可能な治療プログラムの立案に繋がり、また実践することで実臨床の困難さが分かり、学生の主体的な学習につなげられることができた。
	平成 30 年 9 月 ～ 平成 31 年 3 月	「精神医学Ⅱ」は精神障害に関する基本的知識を習得する科目である。視覚教材だけでなく、実際の患者の動画を用いて、理解を促した。これにより、精神症状の理解だけでなく、精神疾患患者の生活障害についても理解が促進された。
	平成 30 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法学演習Ⅰ-2」で、観察から所見を取る演習をするため、実際の患者の動画を用いて、演習を実施した。これにより、面接からの主訴の取り方とカルテへの記載方法、観察からの臨床所見の取り方とカルテ記載方法の習得が促された。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
8) 課題・レポートの調整と演習・実習の効果的な活用(健康科学大学)	平成 30 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法演習Ⅱ-2」では、特別支援学校へ2日間の体験実習を行う。それに伴う事前・事後学習を設定し、課題用紙および評価表を作成し、事後に内省できるようにするための資料を用いて指導した。これにより、学生の実習における学習到達度を高めることができた。
8) 客観的臨床能力試験と確認試験の活用(健康科学大学)	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「身体作業療法評価学演習」での脳画像の見方を習得する。事前に課題用紙を作成し、実際に書き込んでいくことで混乱しやすい脳画像の理解を促進した。これにより、病態と解剖を繋げることができ、学生の学習到達度を高めることができた。
10) Keynote の効果的活用(健康科学大学)	平成 29 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法演習ⅠおよびⅡ」では今まで学習の習得状況と課題の明確化のために、知識に関しては確認試験と技術に関しては客観的臨床能力試験を実施した。確認試験により、学習が不足している箇所が明確となり、主体的学習を促すことができた。また客観的臨床試験は動画撮影を行うことにより、的確なフィードバックが得られこれにより、学生の効率的な技術習得が可能となった。
11) 高齢者ボランティアサークルとの連携(健康科学大学)	平成 29 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	担当のほぼ全科目において、講義の進行をわかりやすくするための Keynote を作成した。特に、教科書を用いる場合においては教科書に沿って要点を示す、教科書以外の説明を加える場合には十分な時間をとって学生自身が記入しながら学習することが出来るように配慮して作成した。これにより、進行中の講義で示している箇所が明確となり、学生が配布資料に記載することも増え、理解を促進できた。
12) GPA を活用した成績不審者への復習強化システムの導入(健康科学大学)	平成 31 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	FD プロジェクトのリーダーとして、GPA を活用し、成績が下位の学生を抽出・ICT を活用して双方向性の学習指導システムを考案し、実践した。
2 作成した教科書, 教材 1) 講義用補助教材(健康科学大学)	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「身体作業療法評価学演習」において使用した。ICF や面接技術のより深い理解を促すために、教科書に十分記載されていない内容について要点を示し、方法だけでなく評価の意義や解釈の理解を深めた。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
2) 講義用教材 (健康科学大学)	平成30年4月 ～ 令和4年3月	「作業療法学治療学演習」において使用した。上肢機能、バランス能力のより深い理解を促すために、教科書に十分記載されていない内容について要点を示し、評価・治療方法の理解を深めた。
	平成30年4月 ～ 令和4年3月	「作業療法学評価学演習」において使用した。脳画像の理解を促すために、脳の白地図を作成し、部位を書き込めるようにし、脳画像についての理解を深めた。
	平成30年9月 ～ 令和4年3月	「作業療法演習Ⅰ-2」において使用した。実際患者の面接場面や作業療法場面を動画で撮り、個人情報が入らないように編集をして講義に使用した。繰り返し場면을視聴でき、評価方法の理解を深めた。
	平成31年4月 ～ 令和4年3月	「作業療法学治療学演習」において使用した。グループ毎に事例を作成し、複数の事例検討を集団で討論することで、様々な視点での治療プログラムの立案を学習し、治療に関する理解を深めた。
3) 講義用教材とスライド (健康科学大学)	平成29年4月 ～ 令和4年3月	「生活環境学演習」において使用した。福祉用具に関するエビデンスや福祉用具の適切な利用とそのポイントについて理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成31年4月 ～ 令和4年3月	「身体作業療法評価学演習」において使用した。評価方法・計画の総論および事例の評価計画立案の理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成30年4月 ～ 令和4年3月	「身体作業療法治療学演習」において使用した。疾患別の治療計画の総論および事例の評価・治療計画立案の理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成31年4月 ～ 令和4年3月	「作業療法評価学」において使用した。疾患別の評価の総論および評価方法の理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成30年4月 ～ 令和4年3月	「研究法概論」において使用した。研究における統計の使い方や解釈の方法について理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成30年9月 ～ 平成31年3月	「感覚統合と作業療法」において使用した。自閉症スペクトラムの最新の知見と治療方法について理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成30年9月	「精神医学Ⅱ」において使用した。感情障害の病態メカ

事 項	実 施 年月(日)	概 要
4) 実習指導用マニュアル (健康科学大学)	～ 平成 31 年 3 月	リズムや症状について理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成 30 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法学演習 I-2」において使用した。リハビリテーションにおけるリスク管理やカルテの記載の仕方について理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法学演習 II-1」において使用した。評価結果のまとめかたや解釈の仕方について理解を深めた。また、講義に応じたスライドにより、講義の理解を高めた。
	平成 29 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「臨床実習 I」において使用した。学科内ワーキングで検討をし、臨床実習指導者のもとで病院や施設の特性と作業療法の役割について理解を深められるよう使い、実習を円滑に進めた。
	平成 29 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	「臨床実習 II・III」において使用した。学科内ワーキングで検討をし、臨床実習指導者のもとで病院や施設の特性と作業療法の役割について理解を深められるよう使い、実習を円滑に進めた。
	平成 29 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法特論」において使用した。作業療法士国家試験範囲のうち、内部疾患の作業療法の課題教材を用いた演習により知識の定着につなげた。
	平成 29 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	学生の課題発見能力、課題解決能力の促進のために作成した。学年ごとに実施することで、年間の課題の明確化、それに向けた教員の指導を行うことで、PDCA サイクルを意識した行動や主体的行動が促された。また学修時間の把握も可能となった。
5) 課題教材 (健康科学大学)	平成 29 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	「作業療法特論」において使用した。作業療法士国家試験範囲のうち、内部疾患の作業療法の課題教材を用いた演習により知識の定着につなげた。
6) ポートフォリオ (健康科学大学)	平成 29 年 9 月 ～ 令和 4 年 3 月	学生の課題発見能力、課題解決能力の促進のために作成した。学年ごとに実施することで、年間の課題の明確化、それに向けた教員の指導を行うことで、PDCA サイクルを意識した行動や主体的行動が促された。また学修時間の把握も可能となった。
7) 客観的臨床能力試験用の教材 (健康科学大学)	平成 30 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	学生が客観的臨床能力試験で学習しやすいよう、採点のポイントや注意事項、臨床場面での応用方法などを記載した教材を開発した。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	姿勢から介入する摂食嚥下 脳卒中患者のリハビリテーション (健康科学大学)	共	平成 29 年 9 月	株式会社メジカルビュー社	監修:森若文雄 編者:内田学 共著者:山口育子, 高橋浩平, 最上谷拓磨, 藤田賢一, 相原元 気, 酒井康成, 山鹿隆義, 内田 学, 水野智仁, 井上姫花, 菊池 昌代, 香川健太郎 本人担当部分:A5 判 全 212 頁 中、姿勢と嚥下の関係 (pp.67-76)を執筆

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	ICU 退室後に精神症状を合併した呼吸不全患者に対する作業療法-早期からの精神状態の評価とチームアプローチが有効であった事例-	共	平成29年5月	長野県作業療法士会学術誌 35	佐藤正彬, 川内翔平, 倉島美穂, 西村輝, <u>山鹿隆義</u> p.81-87
	Positive airway pressure for heart failure associated with central sleep apnoea (Protocol).	共	平成 29 年 12 月	Cochrane Database of Systematic Reviews.CD012803.	Yamamoto S, <u>Yamaga T</u> , Nishie K, Nagata C, Mori R
	Peripherally actingµ-opioid antagonist for the treatment of opioid-induced constipation: Systematic review and meta-analysis.	共	平成30年5月	J Gastroenterol Hepatol. 34(5):818-829.	Nishie K, Yamamoto S, <u>Yamaga T</u> , Horigome N, Hanaoka M.
	PT・OT・ST の時間外労働削減のための取り組みと成果	共	平成 30 年 12 月	国立大学リハビリテーション療法士学術大会誌 39	井戸芳和, 寺島さつき, <u>山鹿隆義</u> , 西村輝, 大津勇介, 山本周平, 荻無里亜希, 川崎桂子, 吉村康夫 p. 103-105
	精神科長期入院患者を対象とした Illness Management and Recovery の実践報告	共	平成31年1月	日本臨床作業療法研究6	池谷政直, <u>山鹿隆義</u> , 岩田悠弥, 中西康祐 p. 1-6
	Effects of liaison between physiotherapists and occupational therapists for home-visit rehabilitation: Preliminary study.	共	令和 1 年 5 月	Journal of Physical Therapy Science .31(8)	Katsutoshi A, <u>Takayoshi Y</u> , Hitoshi M, Daisuke S, Kosuke N p. 612-616
	Positive airway pressure therapy for the treatment of central sleep apnoea associated with heart failure.	共	令和1年12月	Cochrane Database of Systematic Reviews.CD012803	Yamamoto S, <u>Yamaga T</u> , Nishie K, Nagata C, Mori R
	Relationship between Physical Activity and Health-related Quality of Life in Hospitalized and Terminally ill Cancer Patients.	共	令和 2 年 2 月	Shinshu Medical Journal, 68(3):	<u>Takayoshi YAMAGA</u> , Keiji MATSUMORI, Yusuke OTSU, Saki NAKASONE, Tomonobu KOISUMI p.149-157.
	進行肺がん患者の栄養状態, 体組成成分と全身持久力の関連	共	令和 2 年 3 月	国立大学リハビリテーション療法士学術大会誌 41	松森圭司, <u>山鹿隆義</u> , 大津勇介

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	Impact of physical performance on prognosis among patients with heart failure: Systematic review and meta-analysis	共	令和2年4月	Journal of Cardiology. 76(2)	Yamamoto Shuhei, <u>Yamaga Takayoshi</u> , Nishie Kenichi, Sakai Yasunari, Ishida Takaaki, Oka Keiko, Ikegami Shota, Horiuchi Hiroshi p. 139-146
	Cochrane corner: Positive airway pressure therapy for the treatment of central sleep apnoea associated with heart failure	共	令和3年2月	Heart. 2021 Feb 10: heart2020-317888	Shuhei Yamamoto, <u>Takayoshi Yamaga</u> , Shohei Kawachi, Manaka Shibuya, Kenichi Nishie
	Effect of Instrumental Activities of Daily Living Habituation due to Routinizing Therapy in Patients with Frontotemporal Dementia	共	令和3年2月	BMJ Case Rep. 2021 Feb 4;14(2) :e240167	Kosuke Nakanishi, <u>Takayoshi Yamaga</u>
	Successful occupational therapy at end of life for a patient with prostate sarcoma	共	令和3年6月	BMJ Case Rep. CP 2021;14:e242056	<u>Takayoshi Yamaga</u> , Katsutoshi Asano, Masanao Ikeya, Kosuke Nakanishi
	Effects of inspiratory muscle training after lung transplantation in children	共	令和3年7月	BMJ Case Rep. CP 2021;14:e241114.	<u>Takayoshi Yamaga</u> , Shuhei Yamamoto, Yasunari Sakai, Takashi Ichiyama
	The effectiveness of supplemental oxygen during exercise training in patients with chronic obstructive pulmonary disease who show severe exercise-induced desaturation: a protocol for a meta-regression analysis and systematic review	共	令和3年12月	Systematic Reviews 10(1) 110-110	Shohei Kawachi, Shuhei Yamamoto, Kenichi Nishie, <u>Takayoshi Yamaga</u> , Manaka Shibuya, Yasunari Sakai, Keisaku Fujimoto
	Pulmonary Rehabilitation for Patients After COPD Exacerbation.	共	令和3年12月	Respiratory care	Manaka Shibuya, Shuhei Yamamoto, Shuken Kobayashi, Kenichi Nishie, <u>Takayoshi Yamaga</u> , Shohei Kawachi, Atsuhiko Matsunaga
学会発表	市中肺炎患者の呼吸機能は再入院の予測因子となりうるか?(口頭発表)	共	平成29年6月	第52回日本理学療法学会(東京)	酒井康成, 大平雅美, 横川吉晴, <u>山鹿隆義</u> , 吉村康夫

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	50 歳代における健常者と前糖尿病者の身体機能, 身体活動量の比較(口頭発表)	共	平成29年6月	第52回日本理学療法学会(東京)	常田亮介, 三澤加代子, 西村輝, 上野七穂, 堺 彩夏, <u>山鹿隆義</u> , 井戸芳和, 吉村康夫, 椎大亮, 酒井典子, 佐藤裕信, 宮尾陽一, 加藤博之
	間質性肺炎急性増悪患者に対して短期間の骨格筋電気刺激法介入によりADL動作改善が得られた一症例(ポスター)	共	平成 29 年 10 月	第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(宮城)	倉島美穂, 山本周平, 川内翔平, <u>山鹿隆義</u> , 市山崇史
	PT・OT・ST の時間外労働削減のための取り組みと成果(口頭発表)	共	平成 29 年 10 月	第39回国立リハビリテーション療法士学術大会(石川)	井戸芳和, 寺島さつき, <u>山鹿隆義</u> , 西村輝, 大津勇介, 山本周平, 荻無里亜希, 川崎桂子, 吉村康夫
	臨床・クラークシップ導入に向けた実習指導者へのアンケート調査(ポスター)	共	平成 29 年 11 月	第22回日本作業療法教育学術集会(東京)	春山佳代, <u>山鹿隆義</u> , 中西康祐
	進行がん患者における身体活動量とQOLの関係について(口頭発表)	共	平成30年9月	第52回日本作業療法学会(愛知)	<u>山鹿隆義</u> , 松森圭司, 大津勇介, 小泉知展
	訪問リハビリテーションにおける作業療法士、理学療法士の連携の予備的調査(ポスター)	共	平成30年9月	第52回日本作業療法学会(愛知)	浅野克俊, <u>山鹿隆義</u> , 大槻晴絵, 中西康祐
	長期入院の統合失調症患者に Illness Management and Recovery が有効であった一事例(ポスター)	共	平成30年9月	第52回日本作業療法学会(愛知)	池谷政直, <u>山鹿隆義</u> , 岩田悠弥, 中西康祐
	グループホームの認知症高齢者に対する作業療法士の支援のための予備的調査(口頭発表)	共	平成30年9月	第52回日本作業療法学会(愛知)	中西康祐, <u>山鹿隆義</u> , 務台均
	臨床・クラークシップ型臨床実習における学生満足度の関連要因に関する検討(ポスター)	共	平成 30 年 10 月	第23回日本作業療法教育学術集会(岡山)	春山佳代, <u>山鹿隆義</u> , 海保享代, 中西康祐, 篠原亮二
	認知症重症度と ADL の関連の予備的調査(ポスター)	共	平成 30 年 10 月	第37回日本認知症学会学術集会(北海道)	中西康祐, <u>山鹿隆義</u> , 池谷政直
	脊髄梗塞による対麻痺で抑うつ傾向を呈した事例—早期目標設定が抑うつ傾向是正・行動拡大のき	共	令和 1 年 9 月	第53回日本作業療法学会(福岡)	塚越大智, 西村 輝, <u>山鹿隆義</u> , 岩井龍之介, 堀内博志



区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	かけとなった介入ー(ポスター)				
	主観的社会的スキルは OSCE・臨床実習により変化するのか? (ポスター)	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学会(福岡)	高橋享代, <u>山鹿隆義</u> , 榎田哲 弥, 池谷政直, 中西康祐
	Illness Management and Recovery を実施した長期入院統 合失調症患者のケースシリーズ研 究ー社会生活機能に着目してー (ポスター)	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学会(福岡)	池谷政直, <u>山鹿隆義</u> , 岩田悠 弥, 中西康祐
	認知症の進行に伴う ADL 遂行状 況の変化についての予備的調査 (口頭発表)	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学会(福岡)	中西康祐, <u>山鹿隆義</u> , 池谷政直
	進行がん患者における軽度の身 体活動量は QOL に影響するのか ー傾向スコアを用いた解析ー (口頭発表)	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学会(福岡)	<u>山鹿隆義</u> , 松森圭司, 大津勇 介, 小泉知展